

3・31東電本社へ!

全学連(織田陽介委員長) 書記局通信

2011年3月28日

No. 8

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

全原発を直ちに止める! 東電抗議行動に総決起を!

【1】三里塚と被災地の怒りはひとつ! 3・27現地集会・デモが大高揚

◆全学連・織田委員長の発言

今も被災地で悲しみや苦しみや本当に全てのものを失った中から、怒りをもって立ち上がっている労働者・農民・漁民・学生の思いと一つになって決意を表明したいと思います。

私たち全学連の中央執行委員会は反原発の一千万規模の一大署名運動を皆さんに提起したいと思います。

原発を今すぐ全て止めなければなりません。そして、この闘いを連合と全労連の支配を打ち破って、全労働者の闘いにしなければなりません。日本共産党は、核の平和利用とやってきたじゃないですか。連合は、新成長戦略のもとに原発による金儲けに賛成してきたじゃないですか。そして、彼らは原発がここまで来ても一言も言わない、何も言えない。こんなことは絶対に許せないです。今、連合、全労連の支配を本当に根底から打ち破る大署名運動が必要で

す。そして、学生はこの中から原発を擁護する教授の追放と大学の奪還をかけて、この署名運動を全学的に取り組むということです。

この二つの柱を軸にして、農民も漁民も、そしてあらゆる住民が立ち上がるような運動にしなければなりません。農作物の被害は全て国や東電が補償すべきです。私達はこの原発問題で、労働組合と大学をよみがえらせて、全住民、農民、漁民を全てこの闘いの下に結集していくような運動を始めたいと思います。その先頭で、全学連がこの署名運動を呼びかけたいと考えています。そして何より、この運動をヒロシマの闘いにつなげていく、反戦・反核闘争につなげていきたいと思います。

もう一つは、今の沖縄の情勢です。今、私達が政治休戦を一つ打ち破れば、もう臨界点を越えた怒りと結合することが出来る、そういう情勢です。沖縄の政治休戦の中から、リビアへの空爆が行われ、基地がフル稼働し、騒音・爆音をまきちらしている。怒りが充満しています。沖縄と三里塚を先頭にして、戦時体制を構築するような動きに真正面から反撃しなきゃいけないと思います。

力関係は完全に一変しています。私達がデモをすれば、東北道が開通したじゃないですか。私達の行動を軸にして情勢は動き出しています。私達がこの闘いの先頭にたって全労働者・学生・農民・漁民、全住民の先頭に立って行動に立ち上がる中から、必ず私達の革命への道が開けてくると信じています。だからこそ、この三里塚で徹底的に闘うことです。市東さんの農地の問題、そして現闘本部裁判。私達全学連は先頭に立って断固この三里塚から闘い抜いていく。そういう決意を表明したいと思います。みなさん共に闘いましょう。



◆石田真弓君（東北大学学生自治会委員長）からの被災地アピール



今日、この場で、発言の機会をいただいたことをほんとに感謝したいと思います。そして、絶対にこの困難から逃げずに、被災地で、東北で、闘い抜きます。被災地は、死者、行方不明者が2万人を超えました。原発が激しい事故を巻き起こして、

いつ爆発するのか、いつ放射能が降り注いでくるのか、全く分かりません。現地に取残されて、逃げたくても逃げられない仲間が大勢いますこの現実本当に怒りをもちこの現実と闘いたいという思いで生き抜いている仲間たちがいます。私も、ほんとにそういう仲間と団結して、この困難に立ち向かい生き抜いていきます。

今回の震災は、決して天災ではなく、人災として引き起こされています。今回最も被害が大きかったという津波の現場もそうです。私は実際にこの津波の現場を見に行きました。本当に悲惨な状況です。そして、重要なことは、これに対する対策をこれまでの菅政権であり、自民党政権が一貫してやってこなかったということです。宮城県沖、三陸沖地震は99%起こると言われてきました。実際に国土交通省でさえ起こると言ってきました。しかし、半年前に菅政権が「二百年に一度来るか来ないか、そういった災害に出す予算はないんだ」といって事業仕分けを行いました。こうやって、堤防を作る予算を削られた。結果、2万人が犠牲にされている。これが人災じゃなくてなんでしょうか。

そういった中で、学生が、労働者が、多くの市民が団結して今日、明日を生き抜くために必至になって闘っています。少ない食料を分け合って、あるいは炊き出しをして、今まで奪われてきた団結、新自由主義によりズタズタにされてきた共同体を奪還しながら、本当に生き抜くための自分たちの力を、権力を取り戻そうと、闘いに立ち上がっています。



被災地から結集した仲間たち

これから何をするのかということが今生きている私たちに問われています。今、東京を始めとして、被災地以外の所では、「政治休戦」が叫ばれています。しかし、事実として行われていることはなんですか。敵の側は攻撃を一切緩めていない。それどころか、震災を理由にして、臨時増税や労働者の首切りをやろうとしているじゃないですか。被災地の多くの犠牲者を、そして、今も闘っている人々を理由にして、政府が自分たちのやりたかったことを進める。こんな事を私たちが許していいんですか。私たちはこれを絶対に許さない。

この闘いの中に、私たちの展望があります。そして、三里塚闘争の勝利もこの闘いの中にあります。今回の震災で、多くの農民が農業を続けていくことができない状況におかれています。震災以前から、菅政権はTPPを導入する、地方を切り捨てる、そういう形で多くの矛盾をため込んできました。それが地震という形で全面的に爆発した。つまり、多くの農民が、学生が労働者が、愛する人を、家族を奪われていく、土地や家を奪われていく、こういう形で、敵の攻撃が明らかになっている。これに対して、怒りを一つに結集させていく、この事が私たちに、本当に求められています。みなさん、そのために、私たちは多くの皆さんに救援運動を呼びかけたいと思います。共に、被災地と心をつなぐ、闘って生き抜きましょう。

◆法大文化連盟・斎藤委員長の発言

今の「政治休戦」と言われる中で、改めて確認しなくてはならないことは、どこまで行っても、敵の側は、休戦なんかする気などないということです。

いまこの大震災の中で、沖縄の反戦闘争に対してあの許し難い暴言を吐いたメア国務省日本部長が東北地方の被災地に出向いて「やあ、大変だったね」などと言っている。

そして一方でリビアに軍事介入が始まり、一発一億二千万もするミサイルが百二十発も撃たれている。

また一方で日本では金融機関の救済の為に百兆近い金がつぎ込まれている。その金を何で東北地方に使わないのか。菅首相が「命をかけて救援をやる」といったのは何だったのか。何で銀行の救済のために使うのか。

そして事実上、東北地方が壊滅したことをもって、事実上TPPが前倒しされ、地方の農村が全部粉砕されるということが始まっている。そして未だに菅は、原発政策をやめる気はないと言っている。これはいったい何なのか。

だからやはり私たちは、闘わなくちゃいけない。今改めて、この三里塚闘争の歴史が、この三里塚闘争の闘い方が、





日本の階級闘争の日程に登ってくる時代が始まったと私は思います。

3月20日渋谷大デモをもって情勢は大きく動き始めました。グラグラになっているのは敵の側です。

法大闘争では、人間環境学部教授会で倉岡さんへの無期停学処分が提案されて、3分の2の賛成を得られず、否決された。処分が阻止されました。3月20日をもってつくりだした新たな力関係です。

勝ったときこそが、次へつなげる時です。私たちはこれから、3月の31日に東京電力抗議行動を設定します。ぜひみなさん集まってほしい。

菅の原子力政策を切り裂く、俺たちの力で新たな社会を築く一歩を、3月の31日から始めましょう。ここから、今日この瞬間から、新たな闘いを始めていきましょう。

◆動労千葉・田中委員長の発言

世の中では「日本の国民はこの事態に忍耐強く耐え素晴らしい」といわれています。今なすべきことは、「我々は忍耐強くも我慢強くもないんだ」というを声をあげることです。

今起きているすべての事態は、資本主義、市場原理、そして新自由主義がもたらした労働者や農民に対する生きていくこともできないような虐殺攻撃です。被災地の現実一つを見れば分かるはず。もう2週間以上立っているにもかかわらず、避難所にはおにぎり一つパン一つ。一体これは何なんですか。もう支配も統治能力も完全に崩壊した姿じゃないですか。労働者は全国で少なくとも何十万人職を失い解雇され、農民は手塩にかけてつくった農作物を出荷することすら、漁民は漁をすることすらできない。つまり労働者・農民・漁民から生きる手立てがすべて奪われたということじゃないですか。これは地震で起きたことなんですか。一体政府は原発をつくるために何兆円の国家財政を投入してきたんですか。この何分の一か津波対策に投入していたらこんなことは起きない。すべてが何によってもたらされたのか、このことを本当に徹底的に明らかにしなければならぬ。

こんな事態にもかかわらず、経団連の米倉は「地震に耐えている日本の原発は素晴らしい」と言った。こういう連中がもたらした現実が今回の大震災じゃないですか。厚生

労働省の通知では休業補償を払う必要はないと言っています。きわめつけは、いくつもの巨大銀行が共同して東電に融資すると決定した。東電は倒産し結局は国有化される。だから取り損ないがない。ハイエナのような連中です。結局それは労働者や農民につけ回せばいいと考えている。つまり僕はここで現れていることは、価値増殖だけが自己運動する資本主義がもたらした大災害だってことです。こんなものは今立ちあがって、人間のものを人間に取り戻すという闘いに立ち上がらなきゃいけない。そのことが待ったなしに求められている。

もうひとつ、今回の事態が何万という労働者・農民・漁民を殺し、何百万、或いは何千万という労働者・農民・漁民をこれから殺そうとしている。この現実は大恐慌の中で起きたからです。資本主義の最後の姿は、大震災前にも労働者にも農民にも生きることができない現実を強制してきました。僕らはこれに立ち向かおうとして生きました。大震災を経てその決意を数十倍、数百倍にすることが求められている。この闘いはものすごく大きな可能性を秘めています。こういう事態であればあるほど、我々が飛躍して立ち上がればものすごく大きな可能性を秘めている。

起きている事態は我々の力をはるかに超えたものです。だけど怒りの声と結びついたときに、僕らの力は数倍、数十倍、数百倍になることができる。世の中には今もなお声にならない怒りの声が渦巻いている。一体この事態は何によって引き起こされたのか。この一点が鮮明になれば怒りの声は我慢の限界を超えて一気に爆発し、噴出することは間違いないんです。

あの連合の姿を見てほしい。連合と支配階級が一体となって、この間も労働者を解雇し、非正規に突き落とし、生きていくこともできない現実突き落としてきました。だけど彼らも含めて全面的に破綻です。かつての総評だってこういう事態が起こったら被災地救援の大国民大会ぐらいはやったんですよ。それすらできない現実は何なのかってことです。集まったら原発に対する怒りの声が全部吹き上がるってことです。無数に吹き荒れている労働者に対する怒りの声が全部吹き上がるということです。だからメーデーも中止。今こそ僕らが追求し、努力をしてきた階級的な闘う労働運動が登場させよう。農民とも漁民ともすべての闘う人と連帯してこんな社会の在り方をひっくり返そう。



全国から無数の闘いに立ち上がらなければならない。被災地の闘いはそれを牽引するでしょう。たとえば自治体労働者は不眠不休でガスを直し、水道を直し、下水道を直し電気を通すためにがんばっている。だけど膨大にいるのは非正規の労働者だ。すべての非正規労働者を正規労働者に変えろという要求を出して通る時が来た。これが被災対策じゃないですか。これが被災地の救援ではないですか。そういう闘いが始まったらその炎は全国に燃え広がる。

全世界の労働者が僕らの闘いに注目してる。だから僕は全世界の人たちのよびかけたい。もうこんなことは繰り返さない、繰り返してはいけないんだ。僕らはここで本当に闘いぬく、だから全世界で原発も原子力も核も撤廃する闘いに数十万、数百万でたちあがってほしい。僕らの訴えが世界の労働者の心を掴んで団結させる、そういうところまでこの大震災を通して至ったということです。だから我々の闘いが決定的です。

最後に国鉄闘争について触れたい。年が明けてからJRをめぐる事態も完全に変化してきました。発端は去年の1047名闘争に対する解体攻撃です。政府の側はこれを通して1047名闘争をつぶす、破綻してどうしようもないJR体制の現実を嘘で塗り固めるということに必死になりました。なぜかという全公務員労働者に同じことをやろうとしてきたからです。結局これがJRの情勢を一変させようとしていました。一つ起きたことは国労本部の雪崩を打つ転落です。1月24日の中央委員会では書記長が「連合からオファーが来てます」「歴史的決断をするんだ」なんてこと平然と言っている。1047名解雇撤回闘争という彼らにとってのお荷物を投げ捨てて連合になだれ込んで行く。もう一方では20数年間国鉄労働者を支配してきたJR総連

カクマルとJR当局が激しく衝突を始めました。なぜだかわかりますか。国労が雪崩を打って、1047名闘争がなくなれば彼らは用済みだってことだからです。職場の国鉄分割。民営化以来20数年間にわたる支配の在り方が全部変わろうとしている状況です。こういうときに本当に闘う国鉄労働運動、みんな悔しい思いをして首を切られ非正規職に突き落とされて我慢の臨界点に達していたこの状況を突き破って日本の労働運動がよみがえるチャンスが生まれたということです。そしてこの状況の中で大震災が起きました。この闘いは一つです。ここで問われていた僕らの飛躍がこの大震災を通してもう待たなしに数倍、数十倍の飛躍が問われているということです。僕らはこの道を進みます。これを打ち破って進む力は労働者と農民が連帯し、階級的労働運動を甦らせる以外にはないということをこの一点にかけてこの情勢に立ち向かうそして僕らの手に勝利をつかみたい。



【3】新歓についての考え方

①「3・31東京電力抗議行動」の設定

→これを反撃と組織化の出発点とする

→3・27三里塚集会でのうち出し

→ビラまき、デモ、申し入れ、行動の枠組みの拡大

②新歓決戦（11年前半決戦）の考え方

＊「新歓圧殺」策動をうち破り、圧倒的に登場し新入生と結合する。党派闘争に勝ち抜き、主流派への飛躍を。大震災救援運動の軸を立てた上で、一つに法大攻防に勝ち抜き、二つに原発への怒りを爆発させ、三つに安保・沖縄・反戦闘争に総決起していく構造。総じて、組織化につぐ組織化と核心的人格の獲得。

＊3・31行動→4月冒頭の新歓決戦－4・22法大大結集闘争－4・29沖縄闘争－5月沖縄闘争を組織的集約軸に。

③反原発の大署名運動の開始

＊三つのスローガン（案）「すべての原発をただちに停止・廃止せよ！」「原発事故に伴う被害のすべてに補償

せよ！」「原発推進のすべての大学教授・研究者の責任を追及しよう！」を掲げて。

＊獲得目標は、大震災救援運動の軸に反原発闘争を据えていくということ、資本および帝国主義（戦争）との非和解的衝突として発展させていくこと、そしてそれをキャンパスを舞台に学生自身が新自由主義大学のくびきを粉碎して大学・教育を自らの手に取り戻していく闘いとして組織していくということ。

＊とりわけ、8・6反戦・反核闘争の爆発を目指して、広島大学での取り組みを据えていく。さらには、4～6月の地平の上に、7月における東北大学での全国学生の大集会を展望する。

＊首都圏における社研合同企画構想

＊署名の全国大学への持ち込み

④法大決戦の爆発を＝4・22大結集闘争へ

＊処分粉碎の地平はこの情勢で決定的だ。この大勝利に踏まえ、さらには1年生グループとの闘う団結をうち固

め、「今すぐすべての処分を撤回せよ!」「増田総長の責任を追及する」学内の組織化にうって出る。

＊それはすぐれて、文化連盟の組織拡大―指導部建設として集約されなければならない。法大当局が新歓を破壊し、既成学生団体がそれに与している現実を突破していく道はただ一つ、われわれが責任勢力となって勝利の展望を与え、具体的方針を提示して行動を組織していくしかない。

＊4・22法大闘争を全国学生総結集として闘い、それと一体で東電抗議行動を爆発させていく。

→行動イメージの具体化と宣伝物の作成

⑤新歓―原発―法大―沖縄を通して（直接的には署名運動を通して）拠点建設のカギである活動家形成へ全力を尽くす

⑥5月沖縄闘争への全国学生三桁結集へ

⑦6・5国鉄大集会と6月中下旬の菅政権打倒政治闘争

⑧8・6―8・9の爆発へ（決定的に重視する。とりわけ広島大。これまでの反戦反核闘争のイメージを塗り替えぶち破っていく壮大な構想で）

**東京電力・菅政権の原発事故隠しと被曝許すな！
すべての原発（政策）をただちに停止・廃止せよ！
電力・原発労働者はともに決起し原発止めよう！**

3・31東電抗議行動

【日時】 3月31日 11時半

【場所】 日比谷公園・霞門

【主催】 3・20集会実行委員会（代表 織田陽介）